

1 経過

- 諏訪湖をはじめとする長野県内の河川・湖沼の環境改善に係る調査研究等を充実強化する体制の検討のため、有識者や関係市町からなる「諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方検討会」を、平成30年5月に設置
- 検討会を7回開催し、令和2年3月に「諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方（案）」を取りまとめ

2 目指す姿

- 課題の多い諏訪湖を中心に、県内河川・湖沼の水環境保全に向け、実態把握と課題解決のための**研究機能に重点**を置く
- 諏訪湖をはじめとする県内河川・湖沼等の水環境保全に関する**情報発信の拠点**とする
- 地域に根ざし、住民の**学びを幅広く支援**する
- 研究や学びの**ネットワークを形成**し、総合的に取組を推進するためのコーディネート機能を担う

(1) 研究機能

課題	機能・具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> ○水環境保全に係る調査研究の効果的・効率的な実施体制の整備 ○諏訪湖におけるヒシの大量繁茂や貧酸素水塊の拡大などの課題解決に向けた研究機能の強化 ○マイクロプラスチックの影響など新たな課題への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○水質浄化が劇的に進んだ諏訪湖にしかない貴重なデータを、他の湖沼等の課題解決に活かす ○生態系の転換期にある諏訪湖の実態を解明し、行政課題解決に向け積極的な政策提言を行う <p><具体的方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○県複数機関に分かれている調査研究機能を一元化 ○諏訪湖の特徴を生かした重点研究テーマの設定 ○大学や他研究機関との共同研究等を推進

(2) 情報発信・学び・連携の機能

課題	機能・具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> ○住民の水環境への関心を高めるための情報発信の強化 ○諏訪湖の環境等について総合的に学習するための仕組みと拠点の整備 ○各機関が実施する調査研究、情報発信、環境学習等の連携強化 ○官民協働による更なる水環境保全の取組推進に向けたコーディネート機能の発揮 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民に向け水環境保全に関する情報を幅広く提供するとともに、研究成果を県内外に発信 ○住民の学びを支援し、誰もが諏訪湖の環境や情報にアクセスできる仕組みと場の創出 ○様々な機関が実施する水環境保全に係る活動をネットワーク化し、コーディネートする機能を担う <p><具体的方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○諏訪湖をはじめとする調査研究や、各団体等が行う情報を一元管理し効果的に発信 ○住民が自発的に学習し交流できる「学びのスペース」の設置 ○コーディネート役職員の配置や、センター運営に住民が参加できる仕組み（市民研究会）の整備

3 設置・施設概要

- 諏訪湖近隣地に設置し、令和4年度中の業務開始を目指す

機能	主な施設	概ねの規模
調査研究	研究室、機器室、冷蔵室、標本庫、屋外作業準備室 等	1,000㎡程度
環境学習	学びのスペース（学習、実験、展示、図書、情報検索等）	300㎡程度